

第 13 次 5 ヶ年計画建議の検討

田中 修

はじめに

習近平総書記は 7 月 20 日、党中央政治局会議を開催し、10 月に党 5 中全会を開催することを決定するとともに、そこで議論される第 13 次 5 ヶ年計画建議について検討した。以下は会議の概要である（新華網北京電 2015 年 7 月 20 日）。

2020 年までに小康社会を全面的に実現することは、わが党が確定した「2 つの百年」奮闘目標の最初の百年奮闘目標である¹。第 13 次 5 ヶ年計画期間は、小康社会を全面的に実現する決定的段階であり、第 13 次 5 ヶ年計画はこの奮闘目標を軸に制定しなければならない。

現在、平和と発展という時代のテーマに変わりはなく、わが国経済発展は新常态に入り、わが国は大いに発展できる重大な戦略的チャンスの時期に直面しているのみならず、多くの矛盾が相互に積み重なった峻厳な試練にも直面している。

我々は、戦略的チャンスの時期が内包する深刻な変化を正確に把握し、各種のリスク・試練にさらに有効に対応し、改革開放以来打ち固めた基礎の上に、自信を確固とし、鋭意進取の精神で、奮発して成果を上げ、引き続きパワーを集中して自身の事をしっかりやり、発展の新たな境界を不断に開拓しなければならない。

第 13 次 5 ヶ年計画期間にわが国経済社会の発展を推進するには、中国の特色ある社会主義の偉大な旗印を高く掲げ、第 18 回党大会・3 中全会・4 中全会精神を全面的に貫徹し、鄧小平理論・「3 つの代表」重要思想・科学的発展観を導きとし、習近平総書記の一連の重要講話精神を深く貫徹しなければならない。小康社会を全面的に実現し、改革を全面的に深化させ、全面的に法によって国を治め、党を全面的に厳しく治めるという戦略手配を堅持し、発展という第一の重要任務を堅持し、経済建設・政治建設・文化建設・社会建設・生体文明建設及び党の建設を全面的に推進し、第二の百年奮闘目標を実現し、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するために、さらに堅実な基礎を打ち固めなければならない。

第 13 次 5 ヶ年計画期間、わが国の発展の環境・条件・任務・要求等はいずれも新たな変化が発生する。新常态を認識し、新常态に適応し、新常态をリードし、経済社会の持続的で健全な発展を維持するには、新しい理念・新しい考え方・新しい措置がなければならない

¹ もう 1 つの奮闘目標は、建国百周年の 2049 年までに中国を富強・民主・調和のとれた社会主義の現代国家に築き上げることである。

い。

発展理念は、発展の行動を先導するものであり、発展の考え方・発展の方向・発展の注力点を集中的に体現するものである。経験を総括し、問題を深く分析し、発展理念の筋道を整理しはっきりと述べて、発展理念の転換により発展方式の転換をリードし、発展方式の転換により発展の質・効率の向上を推進し、第13次5ヵ年計画期間のわが国経済社会の発展のために道をしっかり指し示し、しっかり水先案内をしなければならない。

最も広範な人民の根本利益をしっかりと実現し、擁護し、発展させることは、発展の根本目的であり、人民の福祉増進・人の全面发展を発展の出発点・帰着点としなければならない。

経済建設を中心とすることを堅持し、実際から出発し、マクロ・コントロール方式を刷新・整備し、経済の中高速成長を維持し、ミドル・ハイエンド水準へと邁進させ、より質が高く、より効率的・公平で、より持続可能な発展の実現を推進しなければならない。

中国の特色ある社会主義制度を整備・発展させ、国家のガバナンスシステム・ガバナンス能力の現代化を推進するという改革の総目標に基づき、各方面の体制メカニズムの整備を加速し、政府機能をさらに転換して、発展のために持続的な動力を提供しなければならない。

社会主義市場経済の法治体系を整備し、法治経済・法治社会の建設を加速し、経済社会の発展を法治化の軌道に組み入れなければならない。

全方位の対外開放を深化させ、外部環境の変化に適切に対応し、互惠・ウインウインの共同发展を推進しなければならない。

党を全面的に厳しく治めるという要求を貫徹し、党の執政能力・執政水準を不断に高め、わが国発展の船が正確な航路に沿って浪をかき分け前進することを確保しなければならない。

(7月22日記)